

## 令和7年度 授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	浦安市立見明川小学校
-----	---------	-----	------------

### 1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○全国・県平均と比較し、各教科の正答率は概ね良好である。しかし、質問紙調査において「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」「算数の勉強は大切だ」「あきらめずに最後まで考える」「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った」といった情意面の肯定的な回答率が全国・県平均を下回る傾向にある。

### 2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させれば、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるという仮説のもと、取組を進める。葛南スタイルの実践モデルプログラム「自分で取り組む」ことに重点を置く。

### 3. 具体的な実践

- 導入の工夫  
児童が自ら「考えたい」「やってみたい」と思えるよう、導入段階での教師の発問を工夫し、学習意欲を高められるようにした。
- 「自分で取り組む」ための学習環境の整備  
AIドリルやヒントカードを活用し、児童が自分のペースや理解度に合わせて学習を進められるようにした。
- 指導体制の工夫（加配教員の活用）  
3年生から6年生の算数科において、担任と加配教員が連携し、指導を行った。また、習熟度別学習を行い、きめ細かな支援を行った。

### 4. 成果

- アンケート結果において「あきらめずに考える」「算数は大切だ」「自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていた」と回答する児童の割合が増加し、学習に対する意識（情意面）の向上が見られた。
- 児童が自分に合った学習方法やペースを選んで取り組む姿が定着し始めた。
- 習熟度別学習を行うなど、加配教員との連携により、児童の学習状況に応じた適切な支援を行うことができた。

### ◆担当指導主事から

○学ぶ意欲に焦点をあて、授業者が場の設定や発問を工夫することで、児童が課題を自分事とし、学ぶ目的を持ちながら学習をすることができた。苦手な児童だけでなく得意な児童にも照準を合わせた指導の個別化を意識した授業を行うことができた。引き続き、発問や場の設定についての工夫をするとともに、学んだことから児童が自ら問いを設定することについても研究を進めていってほしい。